

県外派遣報告書

（社）栃木県バスケットボール協会 審判委員会

大会名	令和6年度第78回国民スポーツ大会関東ブロック大会	開催地	富士北麓公園体育館 鐘山総合体育館
報告者名 (所属連盟)	武井晋平（社会人） 松本祐大（社会人）	派遣期間	2025年8月24日（土）～25日（日）
参加者	本部審判：平原勇次、梶崇司 指名審判：渡邊整、佐藤浩太、内野翔太、千葉美幸		
	<p>茨城県：菊池瑞昭、秋葉智、根反祥恵、土田康隆</p> <p>栃木県：増淵泰久、若林謙作、武井晋平、松本祐大</p> <p>群馬県：岸由貴、石崎公一、小澤朋克、穂川苑子</p> <p>埼玉県：竹澤友美、箱石拓也、若林哲、村上翔</p> <p>千葉県：大坪綾音、久保あしみ、大川尚、安藤俊明</p> <p>東京都：五十嵐菜美、松岡悠貴、濱雄介、松永航平</p> <p>神奈川県：茂泉圭治、藤本梨紗、小野寺美帆、板谷修平</p> <p>山梨県：佐田幸一、雨宮恵、大木裕一、手塚清孝、前田菜津子、河野仁、古屋勝司、内藤教子、中嶋清貴、浅田茂、荻野健、功刀庸至、矢野勇人、天野賢介、長沼大平、三沢奈央、飯嶋貴之、山本恵一、清水倫人、森本裕司、功刀麗菜、大森彩恵、白澤健斗、中嶋駈</p>		
<p>【審判会議内容】</p> <p>プレゼンテーションについて</p> <p>講師の皆様それぞれ気をつけていること、心がけていることとお話ししていただきました。</p> <p>（佐藤浩太氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを良くする為には、コートでの立ち振る舞いが非常に大切である。 ・強く、大きく見せることも重要となる。プレゼンテーションを良くする（変える）為には、今現在の自身のプレゼンテーションを分析し、何かを変えなければならない。その1つとして自身の癖を見つけ修正していくと変化をもたらすことができる。 <p>（千葉美幸氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションはまず見た目が重要である。 <p>メラビアン^①の法則→第一印象は3-5秒で決まる。良い第一印象を与える為に行うことができる（レフェリースラックスのサイズは自分に合っているか？シワはないか？ズボンの裾は長くないか？髪型もきちり整える。）</p> <p>以上を確認した上でコートに立ち、マニュアル通り正しく、ベーシックに行うことが大切である。いくらキレがありカッコ良い動きをしても相手に伝わらないプレゼンテーションは良いプレゼンテーションとは言えない。</p> <p>（内野翔太氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを良くする為には、自分が周りからどう見られているかを知ることが大切である。 <p>ルール通りに正しい判定を行い、それをベンチや選手、観客にどう伝えるか、伝えたことをどう感じてもらえるかを分析し追求していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分以外のレフェリーを見て、真似をしてみるのもプレゼンテーションを良くする1つの方法である。真似をし過ぎると真似をしているレフェリーのコピーになってしまうため、真似もしつつ、自分のプレゼンテーションを確立していくことが重要である。 <p>（渡邊整氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション（レフェリング）を磨くためには、取り組むべきことが大きく3つある。 <ol style="list-style-type: none"> ①ルールの理解と判定力を磨く→ルールを正しく理解し、判定をし続ける。 ②判定の根拠をもつ→コート上で情報をインプットし分析、判断を行う ③生のゲームをたくさん観る→映像で様々な試合を見ることはできるが、現場（生）でしか感じられないことがたくさんある。多くのゲームを生で見て感じ、感性を磨くことが良い判定につながる。 <p>以上のことを行い、判定力が上がるとプレゼンテーションがより生き生きようになる。</p>			

審判員名 武井 晋平

割当日	令和6年8月24日(土)	CC	内野 翔太(指名)
カード	成年男子1回戦 東京都 VS 茨城県	U2	中嶋 清貴(山梨)

- ・社会人SB1同士の対戦ということもあり、終始競り合いのゲームであった。延長戦にまでもつれる試合となった。
- ・試合のテンポセットやファウルバランス、プレーヤーやベンチとのコミュニケーションなど、内野氏が様々なところに気を配っていたので、S級がどういったことを考えて試合に臨んでいるのかということ、身近で実感でき大変勉強になった。
- ・特に前半は、自分の笛の数が少ないように感じたため、試合中は、その焦りを出さないように気をつけて、とにかく自分の目の前の判定に集中した。後半については、積極的に判定に繋げていったが、前半でもチャンスがあったものは、取り上げていきかけた。
- ・笛を鳴らすことができなかつた現象については、再度分析して次に繋げたい。

《審判主任》 佐藤 浩太 氏

割当日	令和6年8月24日(土)	CC	佐藤 浩太(指名)
カード	少年男子準決勝 茨城県 VS 群馬県	U2	長沼 大平(山梨)

- ・1試合目の成年の試合とは違い、体格やスピード、技術等が違うので、切り替えて試合に臨んだ。
- ・全体的には、良かったとの反省を頂いた。自分の目の前のものを良く判定していた。
- ・反省として、セカンダリのタイミングなのか、ケイデンスのタイミングなのか、もう少し見極めて吹いていく必要があるのではないかとコメントを頂いた。ケイデンスについては、自分も今の課題であるため、引き続きトライしていきたいと思う。
- ・ポイントとなる場面において、明らかなものについて、佐藤氏が早めに笛を入れていたので、自分ももっと試合の流れを分析して判定に繋げていきたいと感じた。

《審判主任》 菊地 瑞昭 氏

割当日	令和6年8月25日(日)	CC	竹澤 友美(埼玉)
カード	成年女子準決勝 山梨県 VS 千葉県	U2	村上 翔(埼玉)

- ・試合序盤は、競り合いの試合であったが、後半になるにつれて、山梨がリードする試合となった。
- ・全体的には、決断をして判定に繋げていたのはすごく良かった、それについてはこれからも続けて行って欲しい。
- ・この試合については、少し笛の数が多かったようにも見えるので、コンタクトの見極めについて取り上げなくても良いものもある。
- ・プレゼンもかっこよくとても良いと思うので、引き続き意識して取り組んでほしい。
- ・試合中取り上げたオフェンスファウルもGOODであったが、プレゼンとしてすぐに次の行動に移ってしまっているため、デリバリー力をつけられるよう、改善して行ってほしい。

《審判主任》 千葉 美幸 氏

大会期間中、3本の割当をいただくことができ、また、指名の方とのクルーや審判主任等でコメントいただき、S級の皆さんがどんなことを考えながら試合に臨んでいるのか、ということを感じることができました。自分には、まだ足りないことがあるので、今回ご一緒させていただき、自分の今後に繋げていきたいと強く感じました。

カテゴリーの違う試合を担当でき、大変有意義な大会となりました。今回の大会での反省をまた次の試合で生かせるよう、まずは判定力を培い、そして、その判定に見合った、プレゼンテーションを表現できるよう、意識して取り組んでいきたいと思ひます。

最後に、今回の派遣にあたり、準備よりご尽力いただきました、地元山梨県の皆様、派遣に際しご配慮いただきました、梶審判長はじめ今回ご一緒した栃木県内の皆様に心から感謝を申し上げ、ご報告といたします。

審判員名 松本 祐大			
割当日	令和6年8月24日(土)	CC	穂川 苑子(群馬)
カード	少年女子1回戦 神奈川県 VS 茨城県	U2	天野 賢介(山梨)
◇ ミーティングの内容			
～PGC内容～			
・ 明らかなものを確実にコールしていく			
・ それぞれのプライマリを死守する			
・ ミスマッチが起こる可能性が高いので、特に良く見極めてコールに繋げていく			
・ 表示物に注意を払い、クルー、オフィシャルで連携をしてミスをなくす			
～講師コメント～			
・ クルーがそれぞれのプライマリで良く判定ができていたので良かった			
・ テンポセッティングができており、試合が良い方向に向かっていった			
・ セカンドで吹く時は、誰が見ても明らかなで大きな現象を取り上げるとより良くなる			
《審判主任》千葉 美幸 氏			
割当日	令和6年8月24日(土)	CC	千葉 美幸(東京)
カード	成年女子1回戦 千葉県 VS 埼玉県	U2	荻野 健(山梨)
◇ ミーティングの内容			
～PGC内容～			
・ 3人がそれぞれのプライマリをしっかり判定していく			
・ プレーを良く見極めて、プレーオンにできるものは無理に吹かない			
・ 大人のズルさに惑わされないよう1つのプレーを長くみて判断ができるようにする			
～講師コメント～			
・ 1試合を通してコール、ノーコールを良く確認、判断をして吹いていたところが非常に良かった			
・ その結果アグレッシブなプレーを引き出すことができたと感じた			
・ インサイドのインテンシティが上がった時間帯について笛を入れても良いケースがあった			
《審判主任》根反 祥恵 氏			
割当日	令和6年8月25日(日)	CC	増淵 泰久(栃木)
カード	成年男子準決勝 神奈川県 VS 茨城県	U1	大川 尚(千葉)
◇ ミーティングの内容			
～PGC内容～			
・ 勝てば本戦決定の一番なので、選手やベンチの想いが間違っただけに行かないよう試合をリードする			
・ 留学生と日本人のマッチアップになった時にはより注意を払う			
・ 3 or 2の確認を確実にし、着地までしっかりと見届ける			
・ 無理はせず、確実なコールを積み重ねていく			
～講師コメント～			
・ 全体的にクルーとして良く判定(コール)ができていたのが良かった			
・ テンポセットについても上手く行っていた			
・ ファウルを吹いたもので1、2個見極めてノーコールしても良いケースがあった			
・ CCがTFをコールしたが、CC以外にもその準備があったかどうか			
《審判主任》小澤 勤 氏			
<p>今回は1泊審判として参加をさせていただき、初日に少年および成年女子1回戦の2試合、2日目には男子準決勝を担当させていただきました。私自身、国スポブロック大会を担当させていただくのは自県開催ぶりとなり、事前に2日間で3試合の割当をいただくことが分かっておりましたので、トレーニング等、できる限りの準備をして今大会に臨みました。</p> <p>また、今回の事前審判会議では判定力とプレゼンテーションについてお話しいただき、意識をして今大会に臨みました。</p> <p>いただいた割当については今現在持てる力を出せたと考えておりますが、より高い判定力、より良いプレゼンテーションを追求してまいります。また今大会には多くのS級審判の方が担当されており、レフェリングやプレゼンテーションを間近で拝見でき、とても貴重な経験をさせていただきました。派遣に際して御足労おかけしました梶審判長初め栃木県審判員の皆様、事前の準備から当日の運営等お世話になりました佐田審判長初め山梨県審判員の皆様、ご指導いただきました指名審判員の皆様に御礼を申し上げ、ご報告とさせていただきます。大変多くの貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。</p>			